

お手洗いパウダーコーナーの平面構成と利用実態に関する研究

パウダーコーナー 平面構成
高速道路 駅 商業施設

正会員 ○米山 真未*¹
同 山家 京子*²
同 添田 昌志*³

1. 研究の背景と目的

パウダーコーナー (以下 PC) は、主に女性用お手洗いの中に設けられた洗面器、ブースとは別の空間で、鏡・カウンター・荷物かけ等が設置されており、化粧直しや身だしなみの確認、時には着替えも行うことができる場所である。

PC は近年、オフィスや商業施設を中心として急速に整備がすすんでいるが、その背景としては、仕事をする女性の増加などに伴い、一日の大半を外で過ごす人が多くなり、外出先での化粧直しに対するニーズが高まっていることが挙げられる。例えば、女性の8割近くが駅で化粧をし、6割前後が公共トイレを髪や身だしなみを整える場所として利用していることが既往の調査でも示されている¹⁾。PC は、女性にとってトイレ全体の印象を左右する重要な空間となりつつあると言える。

本研究ではこの PC に着目し、近年の事例の平面構成を分析するとともに、公共施設での利用実態について調査し、適正な PC のあり方を導き出すことを目的とする。

2. パウダーコーナーの平面構成の分析

2-1. 方法

季刊発行の「TOTO通信」²⁾ 過去5年分から「最新の水周り事例」をキーワードに25施設を抜粋し、平面図を収集する。収集した平面図について、その空間の機能に着目し「洗面コーナー」「ブースコーナー」「PC」の3つのゾーンに分ける。これら3つのゾーンと利用者の動線の関係を図1に示すダイアグラムで表現し、空間構成の類型化を行う。

2-2. 結果

図1に示すように対象の25施設について、4類型11タイプに分類した。以下に各類型の特徴を述べる。

【並列型】オフィスビルに多いタイプである。コンパクトに配置することが可能で、使い勝手もよい。また、建物の他の空間に影響が及ばないような配置となっている。

【交差型】オフィスビルに多いタイプである。機能の異なるゾーンを交差させることでオフィスならではの多様な(歯を磨く・コミュニケーションをとる)利用が可能で、リフレッシュ効果を得ることが意図されている。

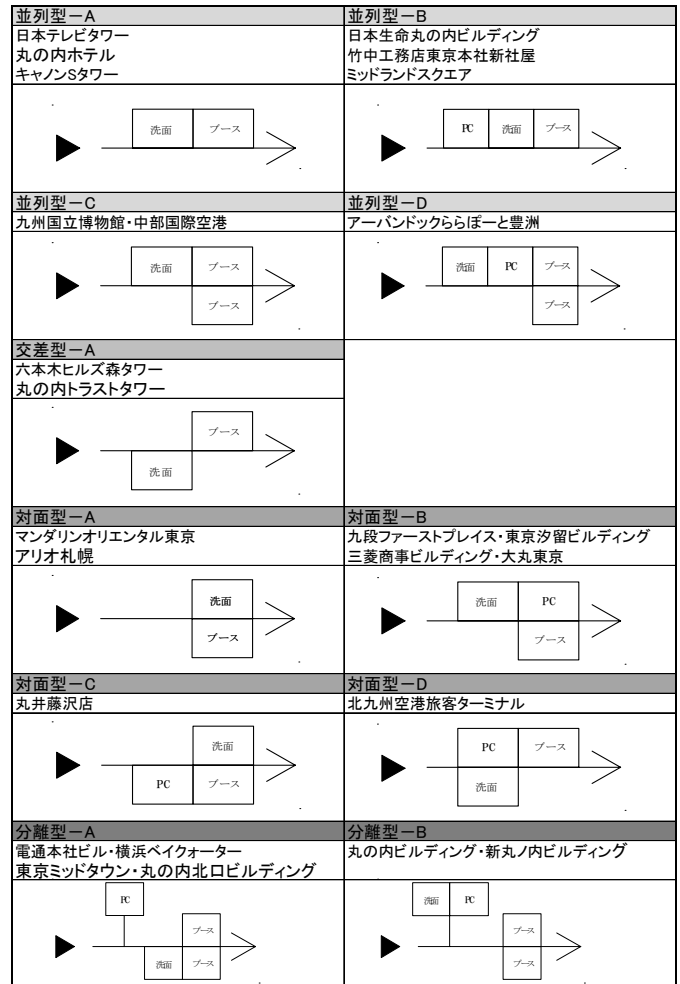


図1 平面構成の分類

表1 パウダーコーナーの類型と施設用途

	オフィスビル	商業施設	公共施設	交通施設
並列型	5	3	1	1
交差型	3	1	1	0
対面型	4	6	0	1
分離型	4	5	0	0

【対面型】比較的、商業施設に多いタイプである。空間が集約してできていることから利便性が高い。また、ユニバーサルデザインを取り入れやすい配置となっていることが特徴である。

【分離型】商業施設・オフィスビルの両方に見られる。PCを分離した個室として設けたもので、化粧や身だしなみの確認を他人の目を気にせずにできるプライバシーの確保に配慮された配置と言える。

3. 利用実態調査

上記の「分離型」に着目し PC の利用実態を把握する調査を行う。分離型は PC が個室として独立して設けられたもので、プライバシーが高い半面、他の場所は離れているため、化粧直しという明確な利用意図がある人向けの配置と言えるため、実際の利用程度を把握する意義があると考えられる。調査は、施設用途による利用ニーズの違いを検証するため複数の施設において行った。

3-1. 高速道路休憩施設における利用実態調査

静岡県内の東名高速道路上にある休憩施設のお手洗いに設けられた PC を調査対象とする (図 2)。ここでは、お手洗いの各ブースの扉にその開閉を記録するログセンサーが取り付けられておりブースの利用者数が分かるとともに、画像解析ソフトにより PC 入口部の通過者数を計測することで、PC 利用者数や滞在時間を知ることが可能である³⁾。

ログセンサーのデータを管理会社である中日本高速道路より提供していただき、ブースの利用者が多い日を予め調べた上で、その内 2 日間 (9/20 (土)・21 (日) 0:00~24:00) における PC の利用者数を計測した。その結果、調査期間中のブース利用者 3,339 名のうち、11.9%が PC を利用していたことが分かった。

また、それらの PC 利用者の利用時間を計測した (図 4)。PC 利用者の約半数が 20 秒以内、2/3 が 30 秒以内である一方、3分以上の利用者も約 6%程度おり、利用時間は二極化していることが分かった。短時間の利用は身だしなみを整える程度のもので、長時間の利用は道具を使った化粧直しなどの行為であると推測される。

3-2. 他の施設における利用状況

施設用途による利用実態の違いを検証するため、駅施設と商業施設の PC において観察調査を行った。調査は「手洗いのみの利用」「PC のみの利用」「手洗い+PC の利用」に分けて利用人数をカウントするものである。

駅施設では、4 割以上の方がお手洗いとともに PC を利用し、また、PC のみを利用する人も 1 割以上おり、合わせて 6 割近くの方が PC を使っていることが分かった (図 2)。駅と高速道路の休憩施設はともに交通施設として分類できるが、PC に対するニーズは大きく異なることが明らかになった。これは移動手段が他者と乗り合わせる電車か自家用車かということや、その場所が目的地か通過地点かということが影響しているものと推測される。

商業施設では今回の調査では N 数が少ないため、明確

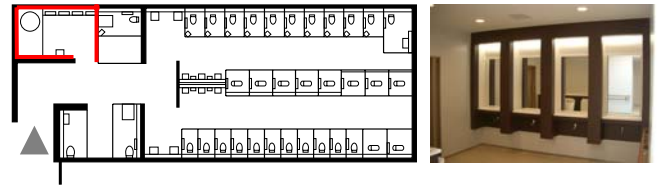


図 2 高速道路休憩施設のパウダーコーナー (分離型)

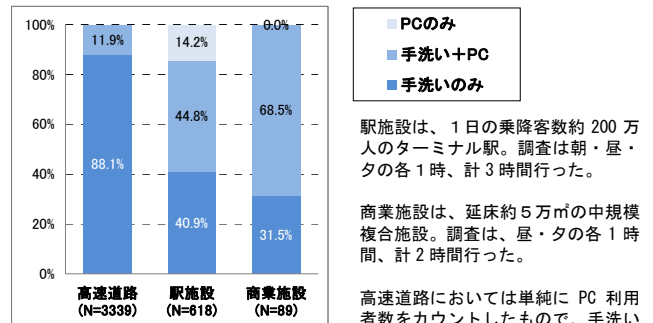


図 3 パウダーコーナーの利用率

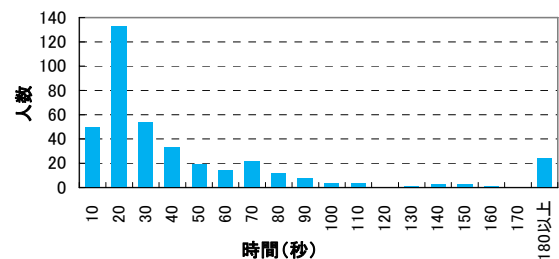


図 4 高速道路のパウダーコーナーの利用時間

な傾向は特定できないものの、PC 利用者だけの利用は低いもの、お手洗いと合わせて利用する人の割合は駅施設よりも高く、PC に対するニーズが高いと想定できる。

4. まとめ

- ①PC を持つお手洗いの平面構成は、「洗面コーナー」「ブースコーナー」「PC」の位置関係と動線との関わりから 4 つのタイプに分類することができる。
- ②PC の利用ニーズは施設用途によって大きく異なる。独立性の高い「分離型」は、ニーズが高い駅施設や商業施設には有効であるが、ニーズが少なく利用時間も短い高速道路休憩施設では、洗面コーナーと一体的に利用できる形式の方が望ましい。

謝辞：利用実態調査においては、中日本高速道路株式会社よりデータをご提供いただくなど多大なご協力を賜りました。ここに記して謝意を表します。

参考文献：

- 1) 博報堂生活総合研究所 「生活新聞 女の駅」
http://seikatsusoken.jp/detail.php?a_id=2777
- 2) TOTO 通信 東陶機器株式会社 2003 年新春号~2008 年春号
- 3) 河合ら：高速道路サービスエリアのお手洗いの適切な空間計画に関する研究 その 1 ログセンサーによる利用率の把握, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (E-1), pp. 645-646, 2008

*1 大和ハウス工業株式会社

*2 神奈川大学 教授 博士 (工学)

*2 LLP 人間環境デザイン研究所 博士 (工学)

*1 Daiwa House Industry Co., Ltd.

*2 Professor, Kanagawa Univ., Dr. Eng.

*2 LLP Human Environment Design Laboratory, Dr. Eng.